

第4章 年齢階級別に見た暮らしの特徴

家計支出の内容は世帯主の年齢によって異なることがあります。ここでは、世帯主の年齢階級別に暮らしの特徴を見てみましょう。

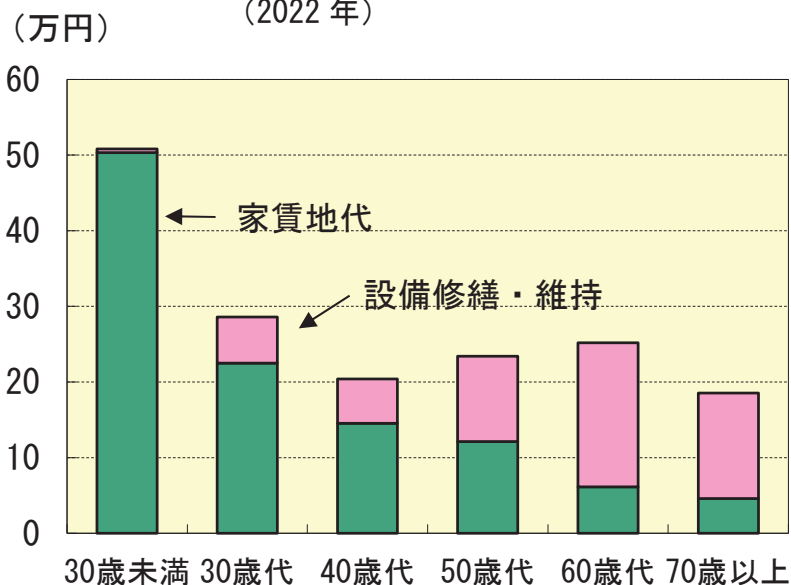
◇二人以上の世帯

1 30歳未満で多い住居費

世帯主の年齢が低い世帯ほど、借家に住む世帯の割合が高いため、家賃地代を含む、住居費の支出が多くなる傾向にあります。特に、30歳未満の世帯では家賃地代の支出が住居費の99.1%を占め、他の年代に比べ最も高くなっています。

なお、世帯主の年齢が高い世帯ほど持家に住む割合が高いため、設備修繕・維持の支出が多くなる傾向にあります。

図 4-1 世帯主の年齢階級別 1世帯当たり年間の住居費（二人以上の世帯）（2022年）

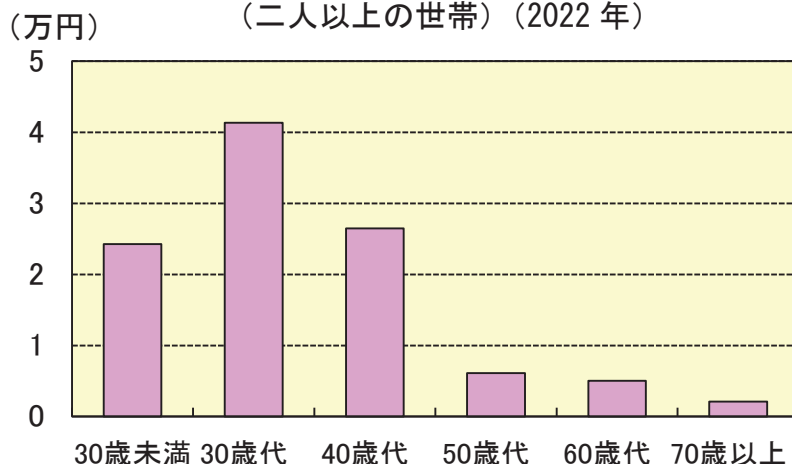


2 30歳代で多い子供用衣料など

世帯主が30歳代の世帯では、幼児のいる割合が高いため、子供用衣料などが他の年代に比べ多くなっています。



図 4-2 世帯主の年齢階級別 1世帯当たり年間の子供用衣料など（二人以上の世帯）（2022年）



子供用衣料など：子供用洋服、子供用シャツ・セーター類、子供用下着類、子供用靴下、子供靴・サンダル

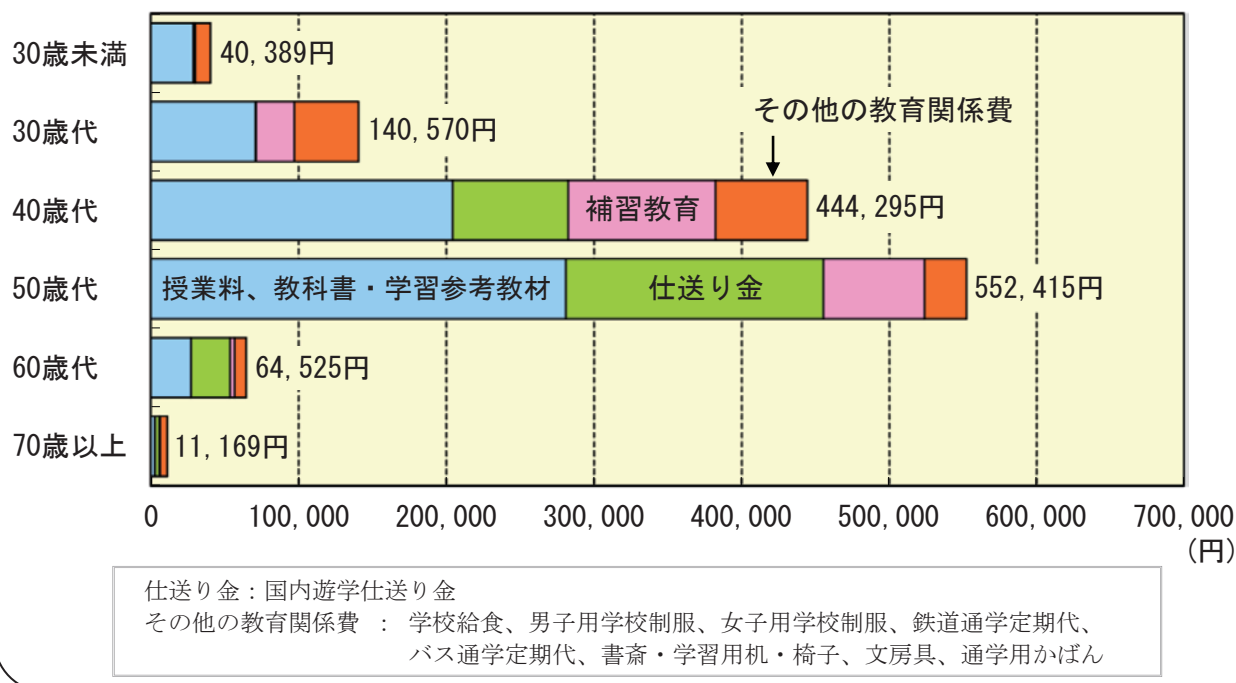
3 40歳代及び50歳代で多い教育関係費

世帯主が40歳代及び50歳代の世帯は、子供が成長し、授業料、学習参考書代、仕送り金、塾の費用などの「教育関係費」の支出が他の年代に比べ多くなっています。

世帯主が40歳代の世帯では、子供が中学校や高校に在学している世帯の割合が高いため、学習塾や家庭教師への月謝などが含まれる「補習教育」のほか、学校給食や文房具などを含む「その他の教育関係費」の支出が他の年代に比べ多くなっています。

世帯主が50歳代の世帯では、子供が親元を離れ、大学に進学する世帯の割合が高いため、子供への「仕送り金」の支出は、40歳代の世帯の約2.2倍になっています。

図 4-3 世帯主の年齢階級別 1世帯当たり年間の教育関係費
(二人以上の世帯) (2022年)



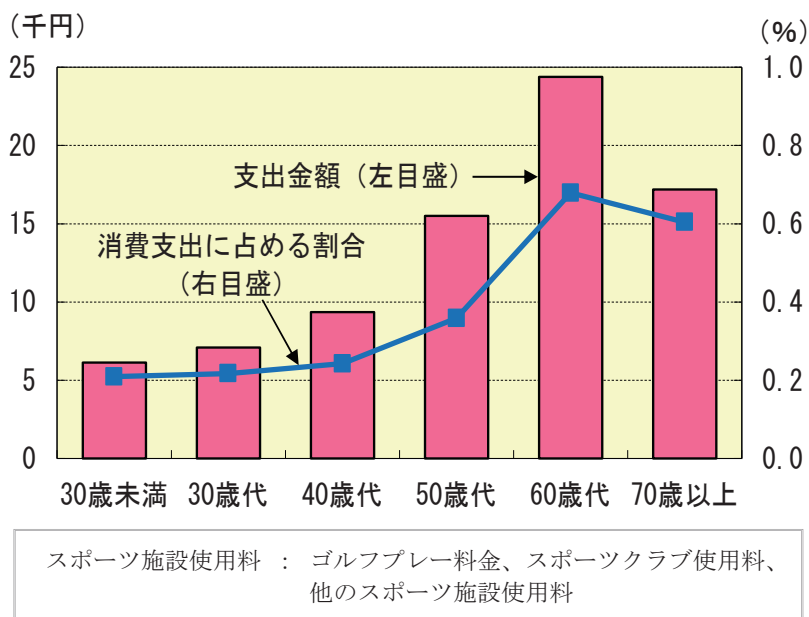
4 60歳代で多いスポーツ施設使用料

フィットネスクラブなどの「スポーツ施設使用料」の支出金額をみると、60歳代の世帯が最も多く、最も少ない30歳未満の世帯の約4.0倍になっています。

なお、消費支出に占める「スポーツ施設使用料」の割合も60歳代の世帯が最も高くなっています。



図 4-4 世帯主の年齢階級別 1 世帯当たり年間のスポーツ施設使用料（二人以上の世帯）（2022 年）



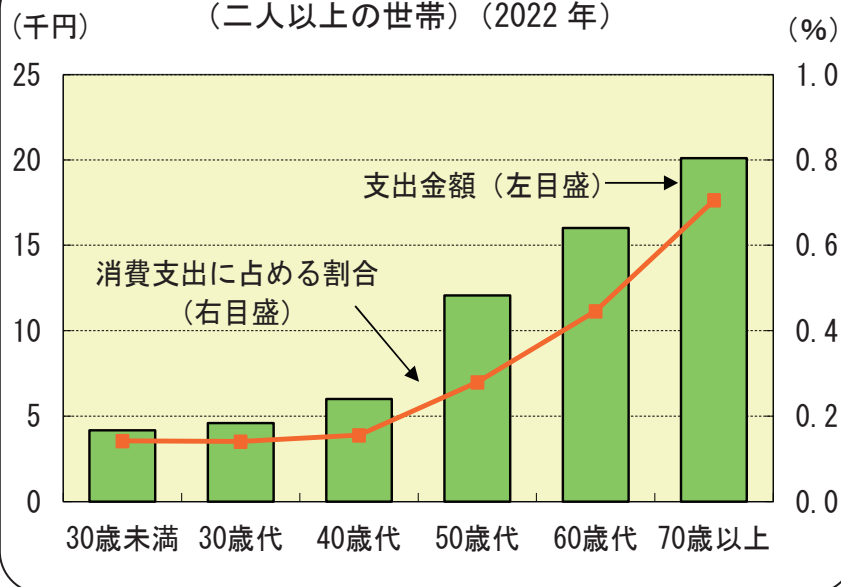
5 70歳以上で多いサプリメントなどの支出

サプリメントなどの「健康保持用摂取品」の支出金額をみると、70歳以上の世帯が最も多く、最も少ない30歳未満の世帯の約4.8倍になっています。

また、消費支出に占める「健康保持用摂取品」の割合も70歳以上の世帯が最も高くなっています。



図 4-5 世帯主の年齢階級別 1 世帯当たり年間の健康保持用摂取品の支出金額（二人以上の世帯）（2022 年）



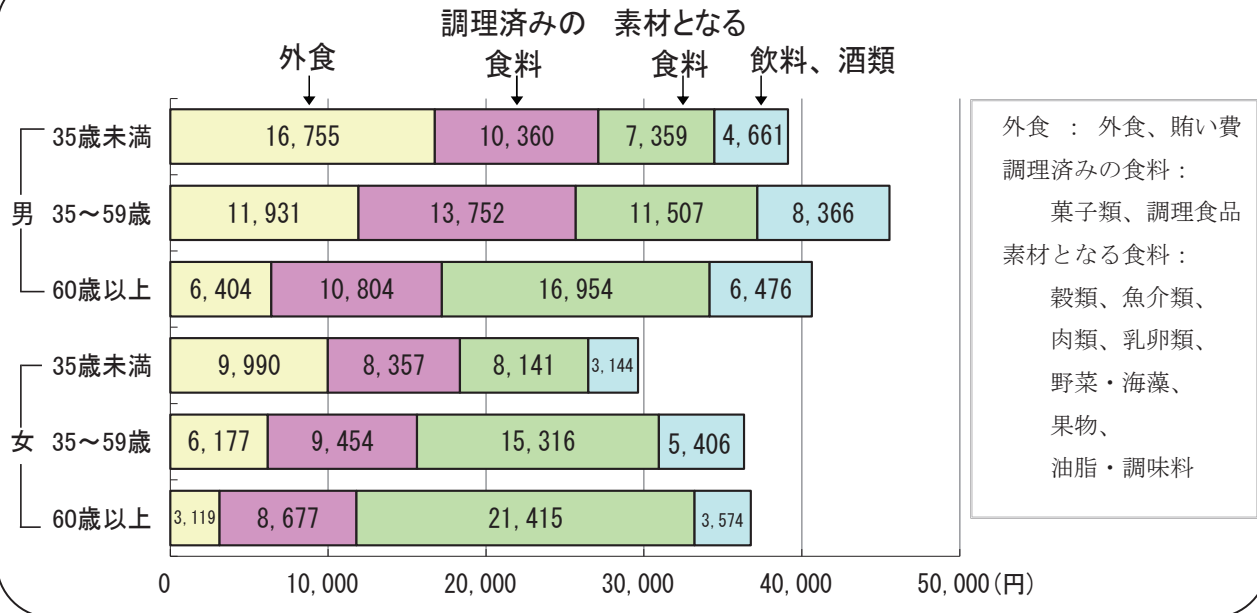
※ 健康保持用摂取品には、青汁、ローヤルゼリー、サプリメントなどが含まれます。

◇単身世帯

35歳未満の男性の外食の支出は1か月当たり約1.7万円

単身世帯について、男女の年齢階級別に食費の内訳をみると、男女ともに、35歳未満で「外食」の支出が最も多くなっており、60歳以上で野菜や魚介類などの「素材となる食料」の支出が最も多くなっています。

図 4-6 男女、年齢階級別1か月間の食費（単身世帯）（2020～2022年平均）



ペット関連費の支出が多い35～59歳の女性

単身世帯について、男女の年齢階級別にペット関連費をみると、35～59歳の女性の支出が最も多くなっています。

図 4-7 男女、年齢階級別年間のペット関連費（単身世帯）（2020～2022年平均）

